

議会運営委員会行政視察報告

1. 視察日程 平成28年11月7日(月)～8日(火)
2. 視察場所 愛媛県八幡浜市役所
道の駅・みなとオアシス八幡浜「みなっと」
3. 視察参加者 真砂 矩男 田中 正治 中山田昭徳
阿部 長夫 藤本 治郎 河野 正治
(随員) 河野 盛寿

4. 視察事項

八幡浜市は四国の最西端、佐田岬半島の基部に位置し、人口35,565人(平成28年4月1日現在)、面積132.68km²の市である。平成17年3月28日に旧八幡浜市と旧保内町が合併して新・八幡浜市が誕生している。

(1) 議会運営について(予算審査・決算審査の運用)

議員定数は16人で、3つの常任委員会を設置し、3名の議員が重複して2つの常任委員会に所属している。また、議長を除く全議員で構成する行財政問題調査と議会改革の2つの特別委員会を設置している。

当初予算は、3月定例会で議長を含む議員全員で構成する予算特別委員会を設置して、全会計(一般会計、特別会計、企業会計)の予算を審査しており、審査日程は4日間(各常任委員会1日・予備日1日)である。

決算審査は、9月定例会で、各常任委員会から3名ずつ計9名の委員で構成する決算審査特別委員会を設置し、一般会計及び特別会計予算を付託して閉会中の継続審査としている。なお、副議長は必ず委員に選出し、議長及び議会選出の監査委員は委員になっていない。

特別委員会の審査事項は、一般会計及び特別会計の歳入歳出決算で、2つの企業会計は各所管の常任委員会に付託している。審査日程は、決算審査特別委員会が連続した3日間、企業会計が各1日の計5日間である。

議会運営委員会での検討課題として、予算特別委員会の常設化が挙げられ、当初予算だけでなく補正予算を含めすべての予算を付託して審査することが検討されている。

委員から、「予算特別委員会の1日あたりの審議時間について」、「決算審査を継続審査にすることについて」、「企業会計の決算審査について」など

の質問が出された。

本市とは、予算・決算審査ともに審査日程など運用が異なる部分があり、それぞれの審査が更に充実するよう視察事項を杵築市議会に取り入れていく必要がある。

(2) 道の駅みなとオアシスについて（八幡浜「みなと」整備運営事業）

八幡浜港は、四国の西の玄関で九州と四国を結ぶフェリーが1日20往復し、年間約70万人が利用していた。しかし、乗客のほとんどが素通りしていた状況にあり、かつての港町としての賑わいを復活させるためにプロジェクトを始動させた。

平成14年3月に八幡浜港振興ビジョンを策定、翌年には八幡浜港みなとまちづくり協議会を設立し、具体案を検討した。その後、10年の歳月を経て、振興ビジョンの主要事業が完了し、その一つである道の駅・みなとオアシス八幡浜「みなと」が平成25年4月にオープンした。

施設概要は、敷地面積 21,545 m²、事業費8億3千万円余り（建物のみ）である。海産物直売所、食堂、産直・物販・飲食施設（民設民営）、観光案内所・まちづくり活動施設、緑地公園、トイレで構成され、エリア内の周遊を促すため、駐車場を中心にテーマパーク型の配置としている。

事業を具体化する中で掲げた目的は、「人が行き交う空間づくり（市民にとって魅力あるものへ）」と「人が活躍できる舞台づくり（市民の誇りや愛着心を育むものへ）」である。市民の購買力を呼び戻すことを基本として、市民が集う施設づくりこそ、フェリー客の利用、市外からの来訪者増大につながる近道であること、また、より多くの市民に港での様々な取組に主体的に関わってもらふことにより市民活動を活発化させることも大きな目的の一つとしている。

オープン以来、3年連続で来場者数は100万人を突破し、施設全体の売り上げは約8億円で、40名以上の雇用を創出している。課題としては、賑わいの継続、経済効果の還流、加工品開発、市民活動の更なる活発化が挙げられている。

委員から、「周囲や市街地の店舗への影響について」、「プロジェクトのメンバー構成について」、「一部施設の民設民営について」などの質問が出された。

本市議会においても道の駅の設置が議論されているが、市民に喜ばれる品揃えを意識して市外の商品を数多く取り扱うなど民間感覚での物販施設の運営や、多目的ホールや会議室を備えた市民活動の拠点となる施設の配置、市民参加型の賑わい創出の取組など、参考となる点が多々あった。

